



# 視覚文化連続講座シリーズ2

# 視覚文化を横断する

(全8回)

視覚文化連続講座シリーズ2

Kyoto Foundation for Visual Culture

絵画や映画など目に見える多様なジャンルを扱う「視覚文化」。きょうと視覚文化振興財団は、「視覚文化」への理解を深めていただける連続講座を今年も開催いたします。

本年度のテーマは「視覚文化を横断する」。全8回の講座では、美術（水墨画／版画／日本画）、写真、映画、新聞などを題材に、専門家がそれぞれの分野を横断しながら「視覚文化」を語ります。

開講時間／14：00～15：30

※質疑応答で30分程延長する場合があります。

会場／平安女学院大学 京都キャンパス

京都市上京区室町通下立売下ル西側  
地下鉄烏丸線「丸太町」駅2番出口より徒歩約5分

定員／40名（7月10日(土)から先着順）

受講料／全8回 8,000円（税込）

『須田記念 視覚の現場』2冊（春季号・秋季号）進呈

※通年受講者席とは別に若干数の聴講生枠を設けます。

1講座（1,200円／税込）のみ聴講ご希望の方は、

事務局までお問合せください。

応募方法／下記に必要事項をご記入のうえ、事務局にFAX（あるいは郵送）していただくか、必要事項を記したメールを事務局にお送りください。なお、財団HPからもお申込みいただけます。

- 1 9月18日(土)  
近世京都と近代東京の画人たち  
— 伊藤若冲と河鍋晓翠を中心に  
👤 澤田瞳子（小説家・同志社大学客員教授）
- 2 10月16日(土)  
心霊写真を見る — 起源から現在まで  
👤 前川修（近畿大学教授）
- 3 11月20日(土)  
「近代」を輸入する — ロンドンの吉澤商店  
👤 笹川慶子（関西大学教授）
- 4 12月18日(土)  
山水のイメージ、山水画の「イメージ」  
— リアルから理想・想像へ  
👤 河野道房（同志社大学教授）
- 5 2022年1月15日(土)  
「版」が取りもつ美術と印刷  
— 近世・近代から今日まで  
👤 熊田司（前和歌山県立近代美術館館長）
- 6 2022年2月19日(土)  
歴史を刻む見出し — 「あの日」の記憶を共有する  
👤 林屋祐子（京都新聞社メディア局）
- 7 2022年3月19日(土)  
「座敷」という生活空間について  
👤 島田康寛（美術史家）
- 8 2022年4月16日(土)  
京の中の大坂・大阪の中の京都  
— 江戸時代から近代に至る画家たちの交流  
👤 中谷伸生（関西大学名誉教授）

主催 一般財団法人 きょうと視覚文化振興財団、京都新聞

協力 平安女学院、京都新聞総合研究所

お問合せ

一般財団法人 きょうと視覚文化振興財団 事務局  
〒611-0033 宇治市大久保町上ノ山51-35  
TEL/FAX 0774-45-5511  
mail info@kyoto-shikakubunka.com  
HP https://kyoto-shikakubunka.com

FAXは切らずに送信してください

## 「視覚文化を横断する」受講申込

月 日 申込

氏名	連絡先	TEL 携帯 FAX	支払い方法 選択	<input type="checkbox"/> 郵便振替 <input type="checkbox"/> 現金書留 <input type="checkbox"/> 銀行振込
住所	きょうと視覚文化振興財団事務局 行 FAX番号 <b>0774-45-5511</b>			

※ご記入いただいた個人情報は、本件以外の目的で使用することはありません。

## 1

近世京都と近代東京の画人たち  
— 伊藤若冲と河鍋曉翠を中心に

- 内容
- 伊藤若冲という男（近世京都における位置づけ）
  - 河鍋曉翠という女（明治以降の画壇と狩野派）
  - 現代人から見た近世・近代画壇
  - 絵画から考える近世・近代

## 講師 澤田瞳子

1977年、京都市生まれ。同志社大学大学院文学研究科博士前期修了。正倉院文書の研究を経て、2010年『孤鷹の天』で中山義秀文学賞受賞。『若冲』で親鸞賞、他に新田次郎文学賞など。



## 5

「版」が取りもつ美術と印刷  
— 近世・近代から今日まで

- 内容
- 「版」のはじまり＝「信用」の貯蔵庫として— 印刷、貨幣
  - 「知識」普及の手段として— 木版／活版印刷、銅版・石版
  - 「視覚」の追体験のために— 複製印刷／版画、石版・写真版
  - 「個性」と「趣味」実現のメディアとして— 「創作版画」、趣味の版画 etc.

## 講師 熊田司

1949年、神戸市生まれ。西宮市大谷記念美術館、ふくやま美術館、大阪市立近代美術館建設準備室などで学芸員として勤務。専門は日本近代絵画・版画史。きょうと視覚文化振興財団評議員。



## 2

## 心霊写真を見る— 起源から現在まで

- 内容
- 心霊写真の誕生（19世紀半ば）
  - 心霊写真の「死」（20世紀初頭）
  - 心霊写真の復活（1970年代～）
  - 現在の心霊写真（1990年代～）

## 講師 前川修

1966年生まれ。神戸大学教授を経て、2020年から近畿大学教授。専門は、美学、写真研究／写真論、芸術学、視覚文化論。通常は研究対象にならない平凡な写真を議論する方法を模索中。



## 6

## 歴史を刻む見出し—「あの日」の記憶を共有する

- 内容
- 映画やドラマを彩る見出し— それによって何が表現されてきたのか
  - ノーベル賞や五輪の見出し— 付けるのは楽しいけど、大プレッシャー
  - 事件や事故、災害の見出し— 規模や深刻さの度合いをどう測るのか
  - 著名人の死亡記事の見出し— その人の生涯を10文字で表すには

## 講師 林屋祐子

1970年、京都府生まれ。京都府立大学文学部史学科卒業、京都大学大学院人間・環境学研究所修士課程修了。1993年京都新聞社入社。読者に新聞の魅力を伝える講座の講師も務める。



## 3

## 「近代」を輸入する— ロンドンの吉澤商店

- 内容
- 映画の始まりと日本への輸入
  - 吉澤商店と古美術
  - 吉澤商店と1910年日英博覧会
  - 吉澤商店とウェストミンスター地区
  - ロンドンの吉澤商店が日本市場に与えた影響

## 講師 笹川慶子

新潟県生まれ。関西大学教授。専門は映画産業史、映画史。映画という視覚装置がアジアでどのように産業を形成し、その過程に政治・経済・文化がどうかかわっているのに関心。



## 7

## 「座敷」という生活空間について

- 内容
- 畳 ○天井
  - 柱 ○建具
  - 座敷飾り（床の間・違い棚等） ○縁側
  - 庭

## 講師 島田康寛

1945年、奈良県橿原市生まれ。奈良県立美術館学芸員などを経て、京都国立近代美術館学芸課長、神戸市立小磯記念美術館館長を歴任。きょうと視覚文化振興財団副理事長。



## 4

山水のイメージ、山水画の「イメージ」  
— リアルから理想・想像へ

- 内容
- 山水画とは何か。山水画の見かた
  - 山水画の成立— 宗炳「画山水序」
  - 唐～宋代古典的山水画の成立と展開（奥行き表現を中心に）
  - 文人山水画（文人画）の成立と展開（胸中の「イメージ」を中心に） etc.

## 講師 河野道房

1958年、愛知県生まれ。大阪府立大学准教授を経て、2013年から同志社大学教授。専門は、東洋美術史、山水画史、中国画論、文人画論、中国墳墓壁画。きょうと視覚文化振興財団評議員。



## 8

京の中の大坂・大阪の中の京都  
— 江戸時代から近代に至る画家たちの交流

- 内容
- 18世紀における京の中の大坂の美術
  - 19世紀における大坂の中の京の美術
  - 近代の京都と大阪の画家たちの交流
  - 欧米から見た京都と大阪の絵画
  - 京（京都）と大坂（大阪）の文化をいかに考えるか

## 講師 中谷伸生

1949年生まれ。三重県立美術館学芸員・学芸課長時代に『萬鉄五郎展』や『ドガ展』を担当。関西大学文学部教授を経て、現在は関西大学名誉教授。木村兼葎堂周辺の大坂画壇を研究。

